MINDAN
民団新聞

在日本大韓民国民団 機関紙
民団新聞社　発行人　呉公太
発行所：〒106-8585東京都港区南麻布1-7-32
TEL 03(3454)4611　FAX 03(5419)7555
郵便振替口座 00160-6-52652
ソウル事務所：〒04538 ソウル特別市中区明洞キル73
大韓YWCA会館310号
TEL 02(734)1164　FAX 02(734)1185

在日本大韓民国民団 綱領
一、ウリは 大韓民国の 国是具現を 期す
二、ウリは 在日同胞の 人権擁護を 期す
三、ウリは 在日同胞の 経済発展を 期す
四、ウリは 在日同胞の 文化振興を 期す
五、ウリは 日本地域社会の 発展を 期す
六、ウリは 世界平和と 国際親善を 期す

購読および広告掲載の申込み・お問い合わせ
TEL 03(3454)6375 FAX 03(5419)7555
PC・スマートフォンでも民団新聞の記事が閲覧できます
公式サイト
www.mindan.org
メインページで日本語/韓国語を選択。
PC・スマートフォンは自動的に判別してリダイレクトします。

今号の読みどころ

結成40周年迎えた青年会
民団傘下団体の青年会が、今年で結成40周年を迎えた。結成までの70年代の混乱と激動の時代を経て、今日までたどった足跡を振り返る。（2・3面）

江戸川区議会 反ヘイト決議
民団江戸川支部の要望を受け、東京・江戸川区は道路や公園、公共施設について、ヘイトスピーチを行う者らに使用させない新たな決議をした。都内で初。（5面）

難局克服へ大同団結を

各地民団で第98周年3・1独立宣言記念式

ヘイト根絶など4決議採択

日本の植民地支配下だった1919年3月1日、韓半島全域で200万人以上の民衆が「大韓独立万歲」を叫び、植民地統治に反対した。「己未3・1独立宣言」が宣布された「3・1独立運動」から98年を迎えた1日、全国各地の民団で記念式典が開かれた。参加者は人種差別を扇動し、在日同胞の生命と生活を脅かすヘイトスピーチを根絶させるため全力を尽くす――など4項目の決議文を採択した。

「3・1」中央式典で万歲三唱する参加者たち

韓国中央会館（東京・港区）で開かれた東京本部主催の中央式典には、民団中央、東京本部の団員や傘下団体の婦人会、青年会、学生会員ら約180人が参加した。

東京本部の金秀吉団長は開会辞を通じて「二度と悲劇的な歴史が繰り返されないよう、韓民族としての民族主体性を正しく確立し、大韓民国の無窮の繁栄と祖国の平和統一に積極参与すると同時に、未来志向的な同胞社会構築のために在日同胞大統合にまい進しなければならない。韓国は現在、厳しい状態にあるが、これまでも数々の難局を克服してきた。今回も必ずや乗り越えることができると確信している。困難な時期ほど3・1精神に立脚し、みなが一つになって困難に打ち勝とう」と呼びかけた。

呉永錫副団長が「己未独立宣言書」を朗読した後、黄教安大統領権限代行首相が記念辞を通じて（李俊揆駐日大使代読）「韓日両国の未来志向のパートナー関係の出発点で必要条件は、正しい歴史認識と未来世代の教育だ。政府は確固たる原則を持ち、歴史問題に断固として対応する。日本政府も歴史をありのまま直視し、未来世代の教育と過去の過ちを反省することに一貫して取り組まなければならない」と述べた。また、慰安婦問題については、「両国は慰安婦被害者問題をめぐる韓日合意の趣旨と精神を尊重しながら実践しなければならない。被害者の過去の苦痛と傷が癒やされ、名誉と尊厳を回復できるよう両国がともに努力しなければならない」と強調した。

李大使は記念辞で「在日同胞社会の民族大団結に着手しなければならない。身分や思想を超えて、民族の未来と繁栄のために、ヘイトスピーチに抗い、次世代のために相互が同胞社会をけん引していけば、未来は開ける」と提起した。

中央本部の呉公太団長は「釜山の慰安婦少女像によって、韓日関係が困難な状態に陥っている。在日同胞の安全と繁栄のためにも、韓日友好関係の改善と持続的な拡大が不可欠で、ヘイトスピーチは必ず根絶しなくてはならない」と訴えた。

南照男議長が①3・1精神を継承し、韓民族の主体性を確立し、祖国の繁栄と平和統一に積極的に参与する②韓日友好増進の懸け橋的な役割を果たし、両国間関係の改善と持続的な拡大に力を注ぐ③次世代育成と同胞社会の大統合を一層促進させ、新たな時代に対応した組織力量の強化に尽力する④人種差別を扇動し、在日同胞の生命と生活を脅かすヘイトスピーチを根絶させるため全力を尽くす――との決議文を朗読し、満場一致で採択された。

続けて青年会東京本部の鄭昇栄会長の主導で、「民族主体性を確立しよう」「同胞社会大統合に全力を尽くそう」「ヘイトスピーチを根絶しよう」と全員が大会スローガンをシュプレヒコールした。

18平昌五輪に弾み

アジア冬季大会で総合2位　韓国

2月26日に閉幕した札幌冬季アジア大会で、韓国は目標を上回る金メダル16個を獲得し、2003年の青森大会以来、14年ぶりに総合2位に返り咲いた。平昌五輪に弾みをつけた。1位は日本、3位は中国だった。

これまで金メダルを獲得できなかったフィギュアスケート、スノーボード、クロスカントリー（男子）でも金メダルを取った。金相恒選手団長（大韓スケート連盟会長）は「国民の皆さんを少しでも勇気づけられれば」と語った。

平昌冬季五輪1年前で目標だった金メダル15個目は、25日にチョン・ドンヒョン（28）がスキーアルペン男子回転で達成。李承勲が男子500O㍍、1万㍍、団体追い抜き、マススタートで初の4冠を達成した。また、崔多彬（17）が冬季アジア大会としては韓国で初めてフィギュアスケートで金メダルを獲得した。韓国の冬季アジア大会での金メダル16は過去最多だ。

フィギュアスケートで金メダルを獲得した崔多彬の演技

韓国はこの日、クォン・イジュン（19）がスノーボード男子ハーフパイプで銀メダルを追加、スキーアルペン女子回転のカン・ヨンソン（19）とスキージャンプ男子団体戦（チェ・フンチョル、チェ・ソウ、キム・ヒョンギ、イ・ジュチャン）は銅メダルを獲得した。

26日の試合では、クロスカントリー女子15キロメートルのイ・チェウォン（35）とスキーフリースタイルモーグル男子チェ・ジェウ（23）が銀メダルを手にした。アイスホッケー男子の韓国代表チームは中国を10―0で下してカザフスタンに次ぐ銀メダルを獲得した。

在外選挙人を初告発

中央選管委　ネット利用し虚偽流布

中央選挙管理委員会は2月21日、インターネット個人放送を利用し、大統領選挙に立候補したBに対する虚偽事実を公布し、批判した嫌疑でブラジルに住む在外選挙人Aをソウル中央地方検察に告発した。

Aは2016年12月8日、ユーチューブの個人放送チャンネルを利用し、立候補予定者Bの父親が「人民軍出身」という虚偽事実を公布し、Bを「アカ」「獣よりも劣る人間の屑」「北韓から操縦されているロボット」などと批判する内容の動画を制作し、放送した嫌疑がもたれている。

選管委が第19代大統領選挙に関連し、虚偽事実の公布及び批判嫌疑で告発するのは初めてのこと。偽のニュースなど虚偽事実の流布及び批判に積極的に対応するため、昨年1月から「批判・黒色宣伝TFチーム」を構成、運営している。2月20日まで総1701件の批判・黒色宣伝の掲示物を削除措置をとった。

中央選管委は、表現の自由を最大限保障するが、有権者の判断を歪曲する虚偽事実公布及び批判行為は厳重に措置する、有権者もまた、無差別な批判よりも候補者の公約と政策で判断するよう広報している。

北ミサイルに備え

韓米軍事演習始まる

韓国の国防省と在韓米軍は1日、北韓の脅威に備えた定例の合同野外機動訓練「フォールイーグル」を開始した。4月末まで続く見通しだ。2月12日に北韓が実施した弾道ミサイル発射実験を受け、緊張が高まる中、訓練は行われた。北韓は6日、平安北道東倉里付近から弾道ミサイル4発を発射。3発が日本の排他的経済水域に落下した。合同軍事演習をけん制したものとみられる。

昨年の訓練には、米軍約1万7000人、韓国軍30万人以上が参加した。マティス米国防長官は1日、韓国の韓民求国防相と電話で会談し、同盟国防衛の米国の姿勢は揺るぎないと述べた。

また、韓国ロッテグループの系列会社が27日、在韓米軍の最新鋭迎撃システム「高高度防衛ミサイル（THAAD）」の配備が予定されている所有地の韓国政府への提供を承認したことを歓迎した。

6カ国協議で韓日意見交換

北韓の核問題をめぐる6カ国協議の韓国首席代表、金ホンギュン外交部韓半島平和交渉本部長と日本代表の金杉憲治・外務省アジア大洋州局長が2月26日（米東部時間）、米ワシントンで会談し、北韓の核・ミサイル開発や金正男氏暗殺事件で浮上した化学兵器問題などについて意見交換した。

会談では、釜山の少女像が設置された問題などで両国関係が悪化している中でも、北韓問題で連携を維持することを確認し合った。

次号は3月22日付

社説　結成40周年の在日韓国青年会

多様化した同胞 牽引を

在日本大韓民国青年会中央本部が2月27日、結成40周年を迎えた。この間、韓国民団（民団）を継承する次世代として、中核の役割を果たしてきた。

青年会が最も行動力を発揮したのは、1980年代の外国人登録法（外登法）改正運動だったと言っても異論はないだろう。

85年の外国人登録証大量切替を前にして、同胞社会の課題に責任をもつ民団は、重大な決意を迫られていた。外登法の根幹を成す指紋押捺と登録証の常時携帯の廃止を求める声が、同胞社会の大勢を占めていたからだ。83年9月、民団は「指紋押捺・常時携帯制度撤廃100万人署名運動」の実施を決定した。

しかし、この膨大な目標を達成するには、日本社会の広範な理解が不可欠だった。青年会は「日本縦断自転車隊」で北海道から沖縄まで全国を巡り、外登法の不当性を訴えながら、駅前や繁華街で署名を集める前衛部隊の役割を担った。

民団の組織を挙げての運動推進と内外世論の後押し、そして青年会員らの献身的な努力が功を奏して、署名は181万を超える結果になった。だが、抜本的な法改正には至らなかった。

順法闘争だけでは限界があると判断した青年会は、指紋拒否という苦渋の選択をした。84年11月に5人の幹部が指紋を拒否し、記者会見で意思表明したのを皮切りに、翌85年2月8日から3月1日にかけて、神戸から東京まで歩く「指紋拒否東海道人権行脚」を実践した。

指紋を強制採取される痛みを日本社会に訴える一方、当事者の同胞には指紋拒否を呼びかけた。青年会と婦人会の両傘下団体の組織的かつ集団拒否は、親団体の民団を突き動かし、「留保運動」につながった。その数1万4000人を超え、韓国籍同胞が対象だった原動力は、指紋拒否者を支え、法改正を勝ち取るというものだった。

指紋1回制という妥協案や拒否者への再入国不許可、逮捕という当局の弾圧など紆余曲折はあったが、ついに93年に永住者及び特別永住者の指紋制度は廃止され、2000年には外登法から指紋制度が、さらには12年には外登法自体も廃止されるという結実をもたらした。

青年会の対象年齢は、これまで18歳から35歳で推移し、韓国籍同胞が対象だった文字通り、韓国籍の、韓国籍による、韓国籍のための青年組織だった。

国籍固執しない

あれから30余年。現在、主流となる20代の青年たちは、日本国籍の母親の国籍を継承できるとした85年の日本の国籍法「改訂」以降に生まれた世代であり、会員の中には日本籍同胞も少なくない。韓半島にルーツがあれば、受け入れている。それが新旧青年会の構成層の決定的な差だ。

最近のデータを見ると、昨年の民団主催次世代サマースクールに参加した大学生の場合、参加者91人中、韓国籍51人、日本籍38人、二重国籍2人という結果になった。さらに、高校生から中学生、小学生の参加者を見ると、世代が若くなればなるほど、日本籍同胞、二重国籍の比率が増えていく。この趨勢は、韓国籍だけを対象にしている限り、在日同胞社会の将来は、青年会、学生会のみならず、民団の先細りも避けられないことを意味する。

「共育」の精神で

結成40周年を迎えた現在の青年会は、今年度の方針に「在日同胞青年共育フォーラム」を謳っている。在日同胞としての同じ思いを育むという「共育」の精神を尊重し、青年たち一人ひとりと真摯に向き合い、これからを考えるというものだ。

青年会報告書によれば、対象者は6万人いるが、なかなか会員化できていない問題に直面しているという。次世代育成が民団の喫緊の課題であるならば、民団が本腰を入れて取り組まなければならない。後継者不在では、民団の将来はない。民団幹部が本気で青年会や学生会の強化に今、取り組み、いつの時代も青年らが抱える「国籍と民族、アイデンティティ」、就職や結婚など、かつてこれらの問題に直面した経験を、今を生きる青年たちに語り継ぎ、共有し、道しるべを示してほしい。

同胞社会の一致団結した力が、指紋制度を改める快挙につながった。「次世代には悪法を繰り返させてはならない」と決意した青年らを中心にした同胞らの熱い思いが結晶した。今日、在日同胞社会は「嫌韓」やヘイトスピーチにさらされているが、在日同胞の一員として、民族のルーツを大切に生きようとする青年らとともに反差別を核とした韓日友好の新たな時代を築き、多様化した在日同胞社会をけん引していこう。

40周年迎えた「青年会」

新たな「2世運動体」へ

◆前史

在日本大韓民国青年会（青年会）中央本部は今年結成40周年を迎えた。在日同胞史をたどる時、在日韓国青年運動史を欠かすことはできない。1919年の「2・8独立宣言」を起点とした在日韓国青年・学生運動の伝統と原則が青年会へと継承されている。

かつての民団傘下の青年組織の誕生がそうであったように、青年会も結成までに様々な混乱と時代の激動を通過してきた。1970年代初頭の「民団混乱事態」から青年会中央本部結成の77年までだ。民団内部に潜行していた朝総連のフラクション一派、「民団正常化有志懇談会（有志懇）」によってひき起こされた一連の暴力と不条理が「民団混乱事態」だ。

「東京本部襲撃事件」「3機関長殴打事件」等にも見られた無秩序と破壊行為の先兵として立っていたのが、当時の民団傘下にあった「在日韓国青年同盟」（旧韓青）と「在日韓国学生同盟」（旧韓学同）だ。「有志懇」の影響下にある一部指導層の誤導によって、在日韓国青年運動の流れは、極めて危険且つ独善的な方向に進んだ。

韓半島全体を視野に入れた評価基準の欠如や、極めて政治的な運動路線への傾倒による観念的体質もさることながら、一般在日同胞青年の素朴な欲求や、在日同胞社会自体の変化への対応の欠如が、旧韓青、旧韓学同運動の限界性を示している。

北韓や朝総連の主張を繰り返し、韓国政府や民団を誹謗中傷し続けてきた旧韓青、旧韓学同の在り方に疑問を持ち、同時に野蛮な暴力行動に憤怒した青年有志が会し、72年5月2日、「韓青中央執行部乱動糾弾大会」を開催した。

集会当日、旧韓青のメンバーが会場内に乱入しようとしたが、独力でこれを排除し、在日同胞社会並びに青年に向けて旧韓青・旧韓学同の誤った在り方を糾弾した。

この集会を起点に、青年たちは民団正常化に向けて奔走し旧韓青と物理的に衝突しながら組織整備を推進していった。数々の犠牲を出しながらも、民団正常化の為に献身的に闘った彼らが青年会中央本部結成の主体となった。72年7月7日の民団第20回中央委員会によって「民団混乱事態」は、一旦、終止符が打たれた。「旧韓青」「旧韓学同」も傘下団体取り消し処分を受け、在日韓国青年運動は空白期に入る。そして次なる在日韓国青年運動の担い手として青年会結成の動きが始まった。

72年に広島を皮切りに東京、兵庫など大都市を中心に次々と青年会が結成されていった。新たな在日韓国青年運動体構築の気運が高まる中、全国の青年が母国で一堂に会する場として、「60万のセマウム・シムキ（新しい心を植える）運動」が73年から始まった。この「セマウム・シムキ」を継続しながら76年までに民団の48地方本部に青年会が結成され、「在日本大韓民国青年会中央本部結成準備委員会」が設立された。

1年の準備期間を経て77年2月27日、民団中央会館にて「在日本大韓民国青年会中央本部」の結成大会が開催され、新たな在日韓国青年運動の歴史が幕開けした。

77年2月の中央本部結成大会

韓民統と激しい衝突

初めてサマージャンボリー　霧ヶ峰に1000人が結集

◆第1期（77～79年）

尹隆道会長

初代会長の尹隆道氏が率いる第1期執行部は課題が山積していた。何よりも「旧韓青」をはじめとする「韓民統」（現韓統連）との闘いだ。反国家的行動を繰り返すこの一派に対し青年会は黙過することなく糾弾行動を展開した。

77年8月13日には、東京台東区の「池ノ端文化センター」において、「韓民統」主催の「海外韓国人民主運動代表者会議」なる会議を阻止しようとする青年会員と旧韓青盟員が衝突し、76人の青年会員が拘束されるという「8・13事態」を引き起こすに至った。この衝突事件を起点に裁判闘争が開始され、「韓民統」の正体や主張の矛盾点を暴露し決定的打撃を与えた。

誕生間もない中央本部が取り組んだのが、全国在日同胞青年の連帯であり、その場がサマージャンボリーだ。77年8月5日から4日間、長野県の霧ヶ峰高原に特設キャンプ場を設け、全国から約1000人の青年が集った。翌年は規模を拡大、三重県の「合歓の郷」に約2000人が結集した。

これらの大衆事業と並行して、青年意識調査事業や新しい青年像の定立を提唱した「セマウム青年100日間運動」を展開し、内部充実、組織強化を図り、在日韓国青年運動の復権を果たした。また、78、79年には全国青年会野球大会も開催し、スポーツにおける同胞青年の連帯も広げた。

第2回のサマージャンボリー

同胞への年金適用求め全国署名

◆第2期（79～82年）

林三鎬会長

第2回中央大会で会長の任期を3年に規約改正した。林三鎬執行部は、理論整備と組織体制の強化を図り、青年運動の方向性提示を進めた。79年からはサマージャンボリーを地協別で開催、2000人以上の参集を実現した。日本の国際人権規約批准を受けて、在日同胞への国民年金の適用を求める「5万人署名運動」を全国展開した。その報告集会を11月3日に開催する予定だったが、10月26日、朴正熙大統領の急逝により翌年2月10日に変更した。あわせて署名目標数を2倍の10万人とした。

東京三田の笹川記念会館で開催した「民族主体性を持って民族差別と闘う在日韓国青年全国集会」には全国で集めた8万人分の署名簿を手に1000人以上の青年が結集し日本政府に在日外国人への国民年金完全適用を要求した。

一方、「10・26事態」を起点に本国情勢が不安定となったことを見据え、組織強化を期すために「セマウム青年・民族正気120日間運動」が提起され、81年秋から82年春まで「結成5周年運動」として研究サークル「在日同胞の未来をみつめる会」を各地方に構成し、在日同胞社会に存在する諸問題を論議・研究した。各界各層の研究者を講師に招いた多分野のセミナーも交え、82年4月の報告集会で提言を発表した。同時に青年会並びに学生会結成準備委員会との共同歩調の下、81年11月3日、在日本大韓民国学生会中央本部が結成され、10年近く続いた在日学生運動の空白にピリオドを打った。

青年会は在日韓国YMCA、学生会、そして在日韓国青年商工人連合会（青商連）と合同で在日韓国青年学生運動のシンボルとして82年2月8日、東京神田の在日韓国YMCAに「2・8独立宣言運動記念碑」を建立した。

民族差別と闘う青年集会

歴史歪曲許さぬ　歴史教科書是正求める

◆第3期（82～84年）

鄭夢周会長

82年4月25日、第3回定期中央大会で任期を2年に戻し、鄭夢周氏を第3代目の会長に選出、「壮大な未来創造の為に高らかにその出発を告げる」との第3宣言文を発表した。

最初の課題は、日本国社会科教科書の史実歪曲問題だった。青年会は文部大臣宛ての公開質問状を提出し、更には9月1日、「日本国教科書史実歪曲完全是正要求・在日韓国青年学生代表者集会」を開催し、全国から結集した青年は文部省を訪れ怒りの声をぶつけた。

この歪曲教科書問題によって提起されたのが「我々の歴史を取り戻す運動」だ。他国や他民族に歪曲されることのない在日同胞自身の歴史を記そうとのスローガンの下、1000人以上の1世同胞から聞き取り調査を行い、証言集「アボジ聞かせてあの日のことを」を発刊した。

83年から指紋押捺と常時携帯義務を課した外国人登録法の改正運動を全面推進していく。民団が全団的に推進していた「指紋押捺・常時携帯制度撤廃100万人署名運動」を基軸に、青年会は自主目標を20万人とした。この機動部隊として「日本縦断自転車部隊」を構成、約2カ月間にわたって北海道から沖縄までを巡回し世論喚起と署名を集めた。

また、65年韓日法的地位協定再協議である「91年問題」を視野におき、研究機関「居住権専門委員会」を設置し、長期的展望に立脚した未来像の模索を開始した。

死力尽くし外登法改正

指紋押捺拒否　東海道人権行脚を決行

◆第4期（84～86年）

権清志会長

84年2月の第5回定期中央大会で会員資格の年齢上限を35歳から30歳に引き下げ、権清志執行部が発足した。85年夏の外登証大量更新期を控えた外登法改正運動が本稼働に突入する時期だった。

10月5日には在日大韓婦人会と共催で「外登法改正闘争在日韓国青年・婦人決起集会」を東京の荒川サンパールで開催、1200人の婦人・青年が結集する中、指紋押捺拒否を前面に出した「外登法改正闘争委員会」の設置を確認した。以後、全国統一行動を繰り返す中、指紋押捺拒否者が続出した。

世論の追い風の中、ピークを迎える外登法改正運動は85年2月8日から3月1日までの21日間、総勢120人の青年が神戸から東京までの約709キロを歩く「指紋押捺拒否東海道人権行脚」を挙行した。大衆から熱い声援を受け、民団がこの後展開した「指紋押捺留保運動」への礎となった。

大量更新をふまえ、民団が「指紋押捺留保運動」を決めると、青年会は拒否できる同胞は拒否を、留保が可能なら留保を、押捺せざるを得ないなら抗議の意思表明を」とのスローガンで、光復節までの40日間、全国8カ所で約70人の青年が「全国縦断、〈恨〉ストリレー」を決行した。指紋押捺留保・拒否者は最終的に1万4000人に膨れあがった。不当逮捕の続出、在留期間更新不許可等、当局の弾圧が激化するも、世論は法改正不可避の大勢となった。

外登法改正運動を経た青年会は自らの民族性高揚の重要性と国際的な視野に立った開放性を追求する為に「プリ（草の根）青年講座」を開講した。

「国際青年年」、そして90年代の青年運動を展望するため、11月10日から14日までの5日間、大型旅客船「サンフラワー号」をチャーターし、神戸から沖縄へ向かう「青年の船」を実施、全国から300人以上の青年が結集した。

指紋押捺拒否東海道人権行脚を果たした青年たちを迎えて開かれた外登法改正要求中央大会

在日の文化を追求

◆第5期（86～88年）

第7回定期中央大会で権会長を再選。中央本部結成から10年の総括と、今後10年、20年後の青年会運動を展望する「結成10周年事業」では「在日同胞文化の可能性」を追求した。

「今、在日同胞文化の創造を！」をスローガンに、全国各地に文化サークルを設置し、本国からサムルノリ、鳳山仮面劇などの専門講師を招いた「文化キャラバン隊」を構成して、全国を縦断しながら在日同胞文化創造の種子を散布した。

その報告会として87年2月6日から3日間、大阪で「21世紀を生きる青年祭」を開催した。

この後、「91年韓日法的地位協定再協議」で安定した居住権の確立を目指す上で、第2次青年意識調査を展開した。2、3世青年の多様な意識をリサーチした上で後半期には、青年会員が望む法的地位の意見を集約するため、「学習みつめる会」活動を展開し、青年の意思を「提言」としてまとめ、韓国政府並びに日本政府と社会全体に示した。

「91年問題」両政府に提言

組織強化キャラバン隊も

◆第6期（88～90年）

安亨均会長

第6期会長に安亨均氏を選出し「91年韓日法的地位再協議問題」と「文化創造事業」の2大課題に取り組む。民団を中心に全同胞が後援してきた88ソウル五輪では全国から青年700人以上の青年が母国に参集し「ソウル五輪参観・青年母国訪問団」を実施し、母国の発展する姿を直に確認した。

88年後半期は法的地位問題の啓蒙と併せて、組織強化を図るため「組織強化キャラバン花郎隊」を構成し、東北、関東、近畿を中心に巡回した。その結集を12月、滋賀で「居住権シンポジウム」を開催し、カルチャークラブなどの文化イベントと、本国の韓日法的地位協定再協議実務担当者を招き、経過説明を受けながら、当事者である同胞青年の声を提起した。

この提言を柱に、89年度は再協議の抜本改定を求める「署名活動」を展開した。戸別訪問で同胞青年と直に語り合い、本会の提言を理解したうえで署名をもらう草の根活動だった。90年1月16日、全国から寄せられた7000人の署名簿は「陳情書」と共に日本国首相に伝達した。

世界卓球で統一チーム　朝青と共同応援団

◆第7期（90～92年）

金京必会長

第7期の会長に金京必氏を選出し、4月23日、前年度に展開した91年再協議の署名簿を本国政府に伝達した。併せて21世紀に向けた大衆団体としての青年会のあり方を見つめ、連帯の拡大を掲げた。8月に三重県で「ザ・ちゃんち」を開催、全国から1500人の青年が参集した。民団主催の次世代育成行事「青少年故郷訪問団」にも積極参与し基盤拡大に努めた。

韓日法的地位再協議に対しては、年末・年始を通して、ビラ配付、自動車デモ、海部首相の訪韓に合わせた東京数寄屋橋での「ハンガーストライキ」など、世論喚起を図った。再協議の一定の終結により、91年の第12回定期中央大会では、未来展望に立ち「創造型」を掲げ、青年・組織・社会の3つの内実化運動を展開した。

この年、千葉県の幕張メッセで開催された「世界卓球選手権」に南北単一チーム「コリアチーム」で参加することを受け、青年会と朝青による共同応援団を構成し、「和合」への可能性を見いだした。朝青との共同応援は朝鮮籍青年対象の「母国訪問団」へと発展し、初めての青年会主催による「母国訪問団」が2回実施された。

世界卓球で南北共同応援団が実現

◆第8期（92～94年）

第8期は金会長が再選された。第7期から推進してきた内実化作業を継続しながら、その収れんの場として、大阪で第1回祝祭「第74周年2・8独立宣言記念在日韓国青年祝祭」を開催した。全国約600人の青年が集結する中、内実化の成果を発表するとともに、参加者全員による大農楽隊などで民族の「和合」に向けたムードづくりを示した。

宅地建物取引業
大阪府知事免許(12)第11036号/国土交通大臣免許(2)第7847号

三　栄　住　宅　　三田商事株式会社
株式会社三田住建　　株式会社明治興産
有限会社明治観光　　有限会社サンヨー土地

代表取締役会長　金　漢　翊

〒564-0027　大阪府吹田市朝日町3-307(吹田さんくす三番館)
TEL(06)6381-0708　FAX(06)6381-6180

大星商事株式会社
株式会社ザ・ベスト
株式会社サンズ

会　　長　朴安淳
代表取締役　髙恵子
代表取締役　朴相昱

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-25-8 松濤アネックス4F
TEL03-5453-3225　FAX 03-5453-3100

民団の闘い 若さで支え

W杯サッカー韓日共同開催に向けて作った自主応援歌「フレンドシップ…友情のゴール」のキャンペーンを都内の大学で

地方参政権、前面に
W杯で「懸け橋事業」展開

阪神大震災救援に全力

◆第9期（94～96年）

第9期会長に選ばれた郭慶則執行部は、翌年の光復50周年に向かって出帆した。前年度実施した「意識調査」の結果を広報するため全国巡回講演会を実施した。

在日同胞の死者129人など未曾有の被害となった1995年の「阪神・淡路大震災」では全国の青年が被災地に赴き救援物資の配給、炊き出し、被害調査などで行動隊として活動した。

翌1996年、日本人地域住民との「共に生きる時代」を高らかに謳い、被災地の神戸で「第3回全国在日青年祝祭」を開催し地域の国際化、共生社会の実現を発信した。

「祝祭」を通じて地域社会との共生をめざし、「地方参政権の獲得」に向けて動き出す。

郭慶則会長

◆第10期（96～98年）

第17回定期中央大会では第4宣言文を発表するとともに崔喜燮氏を会長に選出した。第10期は、「セパラム…新しい風を吹かそう！」をスローガンに「在日」としてのアイデンティティーの確立と組織の改革を掲げた。

地方参政権獲得運動では在日同胞青年の総意を結集すべく、7、8月の2カ月間にかけて「1万人賛同署名活動」を実施、戸別訪問を通じて同胞青年の啓蒙を図った。9月19日には獲得した1万2000人分の署名簿を橋本首相に提出するとともに全国15地方本部が19自治体に署名簿を伝達した。

10月26日の民団創団50周年記念・中央大祝祭では全国200人の青年・学生幹部が運営スタッフとして参与し、祝祭成功の役割を担った。97年3月20日、地方参政権の獲得を求め、婦人会、学生会1200人が合同で「婦人・青年・学生集会&ふれあい大行進」を東京新宿で挙行した。

組織改革では97年の第18回定期中央大会で、青年会幹部が充実感で満たされる制度的裏付けを設け、次世代人材育成システムの導入を進めた。人材育成コンサルタントのプロを外部から招きモデルケースづくりや年2回の「モニター研修会」を実施した。このモニター研修参加者が会活動に積極的になり中心を担う幹部に育った。

第19回定期中央大会ではこの研修を発展させて「青年組織学院（仮称）」の規約制定案を採択した。

2002年のワールドカップが韓日共同開催に決まると青年会は自主応援歌「フレンドシップ・・友情のゴール」を制作し「韓日懸け橋事業」へとつなげた。

崔喜燮会長

青年組織学院 KYAが発足

◆第11期（98～00年）

第11期は崔会長を再選、「かっこいい在日、ステキな在日韓国人」をスローガンに、「地方参政権獲得運動」と「2002年韓日懸け橋事業」を通じた在日韓国人の存在を地域社会にアピールする活動を展開した。規約制定した「青年組織学院」は「Korean Youth Academy（略称KYA）」と名称を決め、年2回の開催を確認した。

またネット時代を見据え、青年会の公式サイトを開設し、メーリングリストなどを通じ、在日同胞青年のネットワーク拡大を進めた。地方参政権獲得運動では3月22日から4月25日にかけ、全国6都市において「日本列島縦断『実現しよう共生社会！』リレーキャンペーン」を実施した。

2002年韓日懸け橋事業では福岡で4年ぶりの全国行事「フェスタ・韓国デー・イン・福岡」を開催し、全国の在日同胞青年をはじめ地域住民2万人が訪れ、W杯韓日大会の成功と在日韓国人の存在を広くアピールした。

1世の証言を映像記録

◆第12期（00～02年）

21世紀の幕開けに出帆した第12期執行部は、金昌敏氏を会長に選出し、山積する諸課題に取り組んだ。「歴史を伝える運動」、「地方参政権獲得運動」、「02年韓日懸け橋事業」を3本柱に、①在日同胞社会の再編②共生社会の実現③韓日友好親善の発展を目標に活動を展開した。

「歴史を伝える運動」では46都道府県、331人の在日同胞1世から聞き取り調査を行い、インタビュー映像を記録化していった。

金昌敏会長

「市民の視点」打ち出す

◆第13期（02～04年）

曺壽隆会長

曺壽隆氏を会長に選出した第13期執行部は、在日同胞社会の山積した課題に「青年」としてどのように対峙していくのか、またそのための組織的な基礎体力づくりを大きなテーマとして出発した。その中で掲げた、「組織構造改革と人材育成」ではKYAのカリキュラムを総合的な人材育成プログラムに再編した。「組織構造改革」では組織運営と規約改正の2方面で着手した。組織運営では「政策」「組織」「財政」「事業」の4部会を編成し、組織的課題の追求を進め規約改正では「会員要件」と「組織機構」の見直しを推進した。

それまでの在日問題への取り組みと一線を画して「市民」という視点から「平和・人権・環境」という人類普遍のテーマを掲げ、人種・民族・国籍の枠にとらわれない多様な活動を追求していった。

外国人の社会参画、地域貢献を目指した「社会参画運動」を掲げ「市民公開講座」をスタートし「在日から見える社会」をテーマに自らの存在価値を指し示す活動の一環として定着させ、「地方参政権獲得運動」を多民族・多文化共生社会の実現を目指す在日同胞社会全体の最大の目標に掲げた。

「5・17事態」に対処

◆第14期（04～06年）

第25回定期中央大会で曺会長を再選。第14期は数年来の課題だった「組織構造改革と人材育成」で中央執行委員会の再編、会員要件の緩和など規約を改正し、より大衆的で民主的な組織づくりを進めていった。

05年に迫った「教科書検定及び採択」も大きな課題だった。「教科書問題に関する記者会見」を国内外で数次にわたって持ち、国際世論喚起を図った。

教科書検定の結果を受けると、各地で「偏向教科書不採択運動」を展開、全国の採択地区に要望書を提出し、地方での教科書採択阻止に影響を与えた。

05年を両国が「韓日友情年」と位置づけたこともあり、「韓流」の大ブームが沸き起こる中、青年会は「民族文化振興事業」を掲げ、「遊びからはじまるコリアンワールド」の冊子や「ハングルカレンダー」を制作し、在日同胞児童はもとより、日本の公教育の現場などへの普及活動に努めた。

在日同胞青年に対しては、自らのルーツへの関心とその歴史性を考える機会を与えるため「コリアンユーストラベル2004」を開催し、全国的な母国訪問事業を主体的に取り組んだ。

教科書検定で記者会見

◆第15期（06～08年）

康孔鮮会長

第27回定期中央大会にて、康孔鮮氏を会長に選出。第15期執行部は民団創団60周年の年だったが、いわゆる「5・17事態」への対応と、青年会中央本部結成30周年を見据えた在日同胞青年のネットワーク再構築を目指した。

06年5月17日、「民団・朝総連共同声明」のいわゆる「5・17事態」時には「民団正常化推進委員会」に加わり、青年活動の重要性、そして影響力を示した。

新たな3機関長が選出された翌年、07年の第28回定期中央大会で結成30周年記念事業として「在日同胞青年ジャンボリー」を打ち出した。このジャンボリーには目標を上回る全国37地方から565人が参加し、近年としては最大の事業となった。

11月には本会会員、OBを中心に民団及び本会に関わりの深い関係者を招待し、「結成30周年記念式典」を開催した。

一方、「多民族・多文化共生社会の実現」に向けた取り組みも展開した。「韓日環境活動」を提起し、京都の琴引浜での清掃活動をはじめ、全国5000人が結集した民団の「永住外国人に地方参政権を！11・7全国決起集会」にも100人近くの青年が参与した。

結成30周年記念の「在日同胞青年ジャンボリー」には全国から565人が参集した

2009年5月31日、東京銀座で開かれた地方参政権を求める青年・婦人集会

「共生社会」実現めざす

◆第16期（08～10年）

金宗洙会長

第29回定期中央大会で金宗洙氏を新会長に選出した第16期執行部は、前年の中央大会で採択された「第5宣言文」の具現化を目指し「国籍の枠を超え出自を尊重する、3、4世にふさわしい在日同胞社会」の創造を掲げ、それを具現化していくために「多民族・多文化共生社会の実現」と「組織活性化と人材育成」を2大テーマとして掲げ、活動を展開した。

組織の活性化、魅力ある組織づくり、それを担う人材育成などの課題を解決するため日常活動の充実化を重視、ウリマル教室や定例学習会などを全国的に実施した。

地方本部再建に取り組む

◆第17期（10～12年）

林善貴会長

第31回定期中央大会で新会長に朴善貴氏を選出。第17期執行部は全国在日同胞青年の結集に向けた「地方本部再建3カ年計画」を打ち出し地方組織の再建に乗り出した。

不実地方在住青年とのネットワークを形成するための母国訪問「コリアン・ユース・トラベル」を開催し、再建を目指す地方の青年発掘を進めた。

創団65周年「次世代育成100人母国訪問」の中核事業として、青年会を対象とした青年母国研修に全国から500人の参加者を募るため集中戸別訪問を実施し、計2300世帯を訪問した。この結果、かつてない地方組織拡大という成果を残した。

10年2月に韓国国会で在外国民に対し国政参政権を付与する法案が可決されたことで全国戸別訪問や日常活動等を通じて在外国民選挙への参与を呼びかけた。

11年3月11日に発生した東日本大震災では、民団と歩調を合わせて義援金の呼びかけのほか全国から協力者を募り救援物資の配送、避難所での炊き出しに携わった。

ヘイトスピーチと闘う

◆第18期（12～14年）

徐史晃会長

第33回定期中央大会で徐史晃氏を第18期会長に選出した。「地方本部再建3カ年計画」の最終年にあたる12年度は、山口、和歌山、長崎で再建された。3年の活動によって7地方本部が再建され3カ年事業開始時の14から21となった。

中央本部35周年では、過去を想起しながら未来を展望する「ウリミレ祝祭」を開催し、今後10年を見据えた組織のあり方やビジョンを定立するための起点となった。

13年度は、12年あたりから新大久保や鶴橋などのコリアンタウンを中心に激しくなったヘイトスピーチ問題の根絶に向けて取り組むとともに、韓日友好親善運動として、市民公開講座の開催と善隣友好精神5万人署名活動を実施した。これには市民団体とも共闘していった。

反ヘイトデモも盛んに行われるようになった（東京代々木公園で）

新青年発掘へ全国巡回

◆第19期（14～16年）（16～17年）

朴裕植会長

第35回定期中央大会で徐史晃会長を再選。14年度は、「在日同胞青年のエンパワーメント向上」「共生社会の実現」「善隣友好精神の具現」を3本の柱に据えた。ヘイトスピーチが社会問題化していく中で、青年会は傍観できないと表明。人種差別禁止の法制化を求める活動を検討しながら、14年8月、民団陳情団の一員として青年会もジュネーブの国連人種差別撤廃委員会に赴いた。一連の流れを受けて、後半期は「全国集中横断活動」を展開した。要望書を伝達するだけでなく、市民団体とのネットワーク構築や地域住民・同胞青年の「声」を集め、インターネット上で映像配信した。

15年は「青年連帯強化」「善隣友好精神の具現」「在日同胞青年エンパワーメント向上」を3本柱に、その中核事業として「若者の声を聴け・フェス&パレード」（コエキケ）を東京代々木公園で開催した。若者たちが「平和」「人権」「多様性」を謳う場となった。

16年の臨時大会で19期の任期を1年延長し朴裕植氏を補選した。秋の青年母国訪問事業を柱に、「全国連帯強化キャラバン」を展開し、戸別訪問などで新青年の掘り起こしを図った。その結果、母国訪問には約300人が参加した。

預金は韓信協 会員信用組合へ
あすか信用組合　信用組合愛知商銀　信用組合岡山商銀
横浜中央信用組合　信用組合広島商銀　九州幸銀信用組合
モットーは在日同胞へのご奉仕
地域社会に密着した、きめ細かいサービスでみなさまの事業をアシストいたします
在日韓国人信用組合協会
〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル 2F　電話 03-6721-5341 / FAX 03-6721-5342

A5黒毛和牛一頭買い専門店 肉バルUSHIQRO豊洲IHIビル
「黒毛和牛バルUSHIQRO（うしくろ）豊洲IHIビル」 東京都江東区豊洲3-1-1 豊洲IHIビル1F　TEL:03-5548-0129
黒毛和牛焼肉 うしくろ
株式会社サンエイフーズ　取締役会長 韓 在銀　代表取締役 韓 永紀
【東小松川店】東京都江戸川区東小松川1-9-13　TEL:03-3654-8929
【千駄木店】東京都文京区千駄木2-42-1　TEL:03-3823-1433
【菊川店】東京都墨田区菊川1-10-2ライオンズマンション1F　TEL:03-3631-9987
【瑞江店】東京都江戸川区南篠崎町3-7-15　TEL:03-6638-8929

あなたの笑顔が
私たちの原動力です
株式会社タイロ
Parlor NOAH
PARLOR NOAH
上永谷店　横浜市港南区丸山台 1-13-21
溝口店　川崎市高津区溝口 1-7-23
本社　東京都葛飾区新小岩 2-8-15 1F　TEL 03-5661-5520　FAX 03-5561-5539

多文化共生の灯守れ

都立小山台高　定時制存続へ集会

多文化共生や人権をテーマとした授業が盛りだくさんで、文部科学省「人権教育研究指定校」にもなっている都立小山台高校定時制課程の存続を求める集会が2月26日、品川区の小山台会館で開かれた。卒業生、教職員、校外の学習支援者が同校のユニークな教育内容をアピールした。

廃課程は東京都教育委員会が2016年2月12日に決定した。対象となったのは小山台高校（品川区）、立川高校（立川市）、雲谷高校（大田区）、江北高校（足立区）の4校に設置されている夜間定時制課程。表向きの理由は、勤労青少年の生徒数の減少と全日制・定時制併置校の利用上の時間的制約。廃止後は昼夜間の3部制定時制高校やチャレンジスクールの規模を拡大し、夜間の時間帯における学習ニーズに対応するとしている。

なぜこの4校が廃止になるのか。「都立小山台高校定時制の存続を求める会」が情報公開請求しても明らかになっていない。4校とも進学校として知られているだけに、同会では「昼間部の充実ではないか」と推測している。

4校とも外国につながる生徒の割合が比較的高いのが特徴。特に小山台は09年ごろから「外国につながる生徒」が増加。こうした生徒のニーズに合わせ、東京外国語大学院の院生や退職教職員による手厚い個別学習（日本語取り出し授業）や放課後の補習が始まった。

グローバル化に対応し、多様性を大切にする市民を育てようと、学校設定教科としてはユニークな「市民科（共に生きる、社会参加）」を設けている。また、「多文化理解（世界と出会う）」では「はじめての中国語」や「はじめての韓国語」を選択できるようにしている。

保護者、民族講師も熱い声援を送った

小山台高校に在籍する生徒で「外国につながる生徒」の割合は現在、全校で35%。国籍別では15カ国にのぼる。これは都立で小山台だけ。1年生に限っては実に7割近い。

関東弁護士連合会（藤田善六理事長）は16年2月、「受け皿となるチャレンジスクールや昼夜間定時制高校が『外国につながる生徒』たちのための十分な代替課程を設置しないかぎり、廃校に反対する」との声明を出した。

脱北者が語る充実した授業

高安京子さんは北送同胞の孫にあたる。19歳の時、日本に脱北してきた。夜間中学を経て小山台高校定時制課程に入学し、11年に卒業した。集会で在学時代の思い出を語った。

入学時の日本語会話は「こんにちわ」と「ありがとうございます」ぐらい。せいぜい、いくつか知っている単語を並べるくらいだった。しかし、日本語の個別授業を受けてからは指導の教員も驚くほど急速に上達した。

学校では生徒会長を務めた。また、在籍していた外国籍の生徒3人に呼びかけて「国際交流班」という部活も創部。毎週木曜日の活動日には日本人生徒との相互理解に努めた。部員は自らが卒業するころには50人にまで増やした。

高校1年生のとき、テレビに映し出されるネパールの子どもたちの窮状を見た。北韓の奥深い山で育ち、電気がなく、水をくみに遠くまで足を運ばなければならなかった自らの子ども時代と重なり、「なんとかしなければ」と支援を申し出た。

聞けば、15万円もあれば子どもたち20～30人が学べる学校1棟が建つという。高安さんはその場で50万円の寄付約束。昼間のアルバイトで稼いだお金をコツコツ送金。寄付金は最終的に200万円に達した。

親のいない子どもたちへの支援は、高安さんの子どものころからの願いだったという。日本に在住してすでに25年。持ち家を手に入れるという夢もかなえ、あとは地球を1周する旅行を残すだけ。

高安さんは「在学中はとても充実した学校生活だった。こんな恵まれた学校は少ない。廃校と聞いて本当にショック。ぜひ残してほしい」と語った。

気合い十分の52チーム

ハングルカルタ　民族学級児童が競う

【大阪】カルタとイヤギ（弁論）を通して民族学級で学んだ韓国語の知識を競う第11回大会（主催、民団大阪本部・大阪韓国教育院）が2月19日、大阪市立小路小学校で開催された。会場は出場のオリニとその保護者、民族講師も加わり、500人であふれかえった。

カルタ大会には大阪府市と神戸市内の小学校から52チーム230人が参加した。まず、4年生以下と5年生以上の両部門に分かれて予選リーグ。各チームともおそろいのTシャツで身を固め、はちまきを巻くなど気合い十分だった。最終的には両部門から各8チームが決勝トーナメントに駒を進めた。使用したハングルカルタは予選より難度がアップ。会場には歓声と拍手が交差した。

4年生以下の部門を制したのは「カンアジ（子犬）」チーム（大阪市立中川小学校）、準優勝は「コヤンイ（猫）」チーム（大阪市立東中川小学校）。5年生以上の部門では「ファングムトゥェジ（黄金の豚）」チーム（大阪市立北巽小学校）が昨年に続き2年連続優勝、準優勝が「ヨン（竜）」チーム（大阪市立中川小学校）だった。

優勝チームにはトロフィーと賞状、副賞（図書券）が贈られた。

弁論大会も白熱

イヤギ（弁論）大会は、3つの「課題文」と「自由作文」部門に分かれ、18校35人が発表した。今年は暗記して弁論発表する児童が多く、手振りや感情表現も豊かだった。

最優秀賞（駐大阪韓国総領事賞）に選ばれたのは金幸太君（守口市立寺方小学校4年）。会場に来ていたハラボジから祝福を受けた。

「課題文」部門2～4年生の優秀賞（大阪市教育委員会賞）は梁夕姫さん（大阪市立中川小学校4年）。同5年生以上は韓あやさん（大阪市立御幸森小学校5年）が受賞。「自由作文」部門は高慧源さん（東大阪市立平寺小学校6年）が獲得した。入賞者には賞状と副賞の図書券が贈られた。

最後は金剛学園テコンド部と白頭学院建国中・高等学校伝統芸術部の文化公演で締めくくった。

プロ野球から指名も

京都国際高校　34人が巣立つ

【京都】京都国際学園（金晃理事長、河東吉校長）から18日、34人が巣立った。第52回卒業式は同校で行われた。

卒業生と握手を交わす河校長

主な進学先は立命館大学、同志社大学など。韓国国内の著名大学にも3人が合格した。また、高校通算37本塁打をマークし、プロ野球福岡ソフトバンクホークスから育成枠ながら5位で指名されていた清水陸哉君は1軍昇格を夢見ている。

駐大阪総領事館から河泰允総領事、民団京都本部から河相泰団長らが参席。「駐日本大韓民国大使館特命全権大使賞」、「在日本大韓民国民団中央本部団長賞」などを贈った。

寒さに負けずに皇居一周

東京韓学生徒

東京韓国学校（呉公太理事長、金得永校長）は2月24日、第51回3・1節記念マラソン大会を行った。高等部は3年生を除く226人、中等部からは320人が参加。全員、皇居外苑1周約5キロを完走した＝写真。

朝9時前にまず高等部男子。続いて高1女子、高2女子がそれぞれ5分おきにスタートした。高等部男子の最高記録は18分59秒だった。中・高等部とも記録上位の男女各3人にメダルと賞状が贈られた。

同大会は3・1精神の継承と、耐寒訓練を兼ねて毎年開催されている。

金剛学園でも

【大阪】金剛学園中・高等学校（趙栄吉理事長、尹裕淑校長）も2月18日、耐寒マラソン大会を実施した。中学1、2年、高校1、2年の在学生合わせて81人が参加。近隣の海浜緑地に到着するや、スタートの合図とともに勢いよく走り出し、女子は2周（5キロ）、男子は3周（7キロ）のコースでさわやかな汗を流した。

ウォンレート

SBJ銀行調べ（3月7日現在）

送金時	1万円	両替時	1万円
韓国⇒日本	97,354ウォン	ウォン⇒円	95,936ウォン
日本⇒韓国	99,682ウォン	円⇒ウォン	98,164ウォン

地方観光で需要喚起

日本人訪韓客増へ提言　JATA

日本からの訪韓客を増やすための「緊急フォーラム」が2日、東京都内のホテルで開かれた。韓国ツアーで旅行需要の喚起を図ろうと2月に日本旅行業協会（JATA）海外旅行推進委員会内に設立されたばかりの「アウトバウンド促進協議会」（菊間潤吾会長）が企画。日本の旅行会社の企画担当者を中心に150人が参加した。

日本からの訪韓客数は2012年の352万人がピーク。15年にはマーズ（MERS、中東呼吸器症候群）の影響で半減。その後も円安に伴う海外旅行離れや韓日関係の冷え込みが続き、この4年間で100万人以上減少した。ようやく昨年になって229万人にまで回復したところだ。

フォーラムでモデレーターを務めた菊間会長は「韓国を訪れる日本人観光客数を増やすためには団体旅行客を増やし、ソウル以外の地方を訪れる旅行商品を開発しなければならない」と提言した。

これに応え、パネリストとして参加した韓国観光公社の申相龍東京支社長が「地方には潜在的な観光地が多い。カギを握るのは地方観光」と述べ、各地の伝統市場、文化観光祭り、国際イベントなどを組み合わせた旅行商品を提案した。今年の日本からの訪韓客は最低270万人を見込む。

5月には駐日韓国大使館で「修学旅行セミナー」を予定している。

東アジア文化都市　大邱観光写真展　大阪の文化院で

【大阪】京都市、中国・長沙市とともに今年、「東アジア文化都市」に選定された大邱広域市の魅力をアピールする観光写真展が駐大阪韓国文化院（朴英恵院長）で開催されている。

韓国観光公社が祝祭、公演、伝統市場などのテーマを業界に提案

自慢の主要観光地を紹介する「大邱12景」をはじめ、チムカルビやホルモンなどの「大邱10味」などパネル写真約40点を展示している。2月17日の開幕式には大邱市関係者も出席。22日には大邱韓医大学のキム・ミリム教授が「韓国料理と韓方・韓薬」と題して講演した。

会期は18日まで。10～18時（日曜日休館）。問い合わせは同文化院（06・6252・8760）。

学生会会長に兪在浩氏

中央大会　規約見直しに着手へ

兪会長（右から3人目）と新執行部メンバー

学生会中央本部（奇龍春会長）は2日、東京・港区の韓国中央会館で第39回定期中央大会を開き、新会長に兪在浩氏（駒澤大1年）を選出した。

兪会長は「一人でも困っている人がいたら手を差し伸べ、助け合っていけるそんな楽しい場にしていきたい」と抱負を語った。また、今年度は「在日」について学ぶ場を増やしていくことも明らかにした。

一方、大学を卒業し、今春から社会人になる奇前会長は「いい経験ができた」と、名残惜しそうに学生会活動を振り返った。

報告によれば昨年度は、夏のKSJ（コリアン・スチューデント・ジャンボリー）と冬のKSJW（コリアン・スチューデント・ジャンボリー・イン・ウィンター）を中心に、月1回のイベントでも「心のより所」を提供してきた。

この間、中央学生会のLINEグループへの参加者は100の大台を超え128人に達した。今年度はさらに大きな受け皿づくりをめざして、今の時代にそぐわなくなった規約の一部について改正作業に入る。

このほかの役員はつぎのとおり。（敬称略）

▽副会長＝鄭健一（未定）▽総務部長・余幸輝（慶大1年）▽代表監査＝鄭昌晃（尚美学園大2年）▽監査＝趙みどり（拓殖大2年）、崔智源（上智大2年）。

大会では青年会幹部のほか、民団中央本部の権清志企画調整室長と在日韓国科学技術者協会の洪政國顧問が激励と祝辞の言葉を述べた。

同胞仲間の連帯確認

KSJW　共通テーマで討論も　学生会

在日韓国学生会（奇龍寿中央本部会長）主催の「KSJW2017」が2月21日から24日まで長野県の野麦峠近郊で開かれた。同胞大学生55人が参加、「繋げよう！～未来にかける勇気の架け橋～」をテーマに、スノボーや映画「パッチギ」の鑑賞、班別討論などで連帯を深めた。

勉強会では、学生会結成に関わった民団中央本部の権清志企画調整室長が、学生会の必要性と同胞交流の意義について語った。また、学生時代から同胞サークルに関わってきた民団新聞の裵哲恩副局長が、80年代の外国人登録法改正運動と現在の反ヘイトスピーチを説明した。

学生らの自由討論では、国籍や民族、本名と通名、就職や結婚など、同胞学生が直面するテーマが多かった。日本の国籍法が改訂された85年以降の世代のため、韓国籍もいれば、日本国籍も二重国籍もいたが、「国籍は違っても、韓半島にルーツをもつ共通項を大切に、学生会で知り合った仲間との友情を一生続けたい」との声が圧倒的だった。

肩を組み合うKSJW参加者たち

民団鳥取「在日講座」30回目に　2部構成で講演

【鳥取】市民の立ち位置から在日関係を考える民団鳥取本部（薛幸夫団長）での「在日講座」が4日、30回目を迎えた。

2部構成。第1部では「日本韓国の市民友好の会」事務局を担い、在日韓国人に対する人権、生活、社会的地位の向上を支援している江角秀人さんが講演。ヘイトスピーチに対抗し、行政そして議会、県民市民を巻き込んで取り組むと語った。

第2部では県公文書館職員で、かつ歴史研究家でもある西村芳将さんが「瓦町新地（衆楽園）と朝鮮人酌婦（娼妓）」と題して講演。瓦町新地の場所由来、娼妓の実態、さらに朝鮮人酌婦の渡航経歴や管理体制などについて明らかにした。

講演は1時間半に及んだが、来場者からの質疑がさらに30分にわたって続いた。薛団長は「日本の植民地政策や慰安婦問題があぶり出された」と感想を語った。聴衆は約30人だった。

猪熊兼勝さんと明日香村を歩く　歴史探訪4月に

【大阪】飛鳥時代研究では第一人者として知られる猪熊兼勝さんが4月23日、奈良県明日香村を案内する。NPO法人大阪ワッソ文化交流協会が第16回歴史探訪として企画した。参加者を募集中。

主な見学先は高松塚古墳、高松塚壁画館、キトラ古墳、キトラ古墳壁画体験館など。10時40分、近鉄吉野線「飛鳥」駅前広場集合。一般参加費1500円（弁当、入館料、資料代込み）。

申し込みは31日締め切り。同協会（06・6371・8703）。

「朝鮮通信使」行列参加者募る

民団国際協力センター

NPO民団国際協力センター（民団神奈川本部内）は5月3日に開催される国際仮装行列第63回ザよこはまパレード「朝鮮通信使」行列の参加者を一般募集している。

当日は「朝鮮通信使」に扮した一行と、華やかなチマ・チョゴリの一群で隊列を構成。山下公園から赤レンガ倉庫前を経由して伊勢佐木町6丁目までの3・4キロを歩く。小学生は男女とも4年生以上から。

問い合わせは070・5472・1362（曺もしくは李）。

訂正　2月22日付の「地方掲示板」は3月の誤りでした。お詫びして訂正します。

SBJ銀行 トリ酉プルキャンペーン 2017年3月31日(金)まで 実施中!

特典1 円定期預金〈ミリオくん〉金利優遇!
はじめて当行で口座開設されるお客さま 年0.30% 税引後 0.239%
既に当行とお取引きのあるお客様 年0.25% 税引後 0.199%
元利金保証・預金保険対象 ●個人のお客さま限定 ●お一人様1口座のみご開設可 ●預入上限100万円 ●預入期間1年

特典2 円から限定〈米ドル定期預金〉金利優遇!
1週間定期(Mr.Weekly) 年29% 税引後 23.108%
1ヶ月定期 年17% 税引後 13.546%
3ヶ月定期 年7% 税引後 5.577%
●円預金から米ドル定期預金新規作成時のみ対象
さらに! SBJダイレクトで為替手数料0銭 ●対象商品：・米ドル普通預金 ・各種米ドル定期預金 ●対象取引：円普通預金から対象商品の新規口座開設および米ドル普通預金へのお預入れ

キャンペーン期間中に米ドル預金をお取引いただいたお客さまには、抽選でプレゼントもございます。詳しくは、店頭・ホームページにてご確認ください

【特典1：円定期預金<ミリオくん>金利優遇】●円定期預金金利優遇は、新規作成時のみの適用となります。満期日以降は店頭表示利率を約定利率として適用します。●金利優遇が適用されるために必要な預入金額は10万円以上100万円以下となります。郵送方式（メールオーダー）の場合は、30万円以上100万円以下となります。【特典2：円から限定<米ドル定期預金>金利優遇】●外貨預金は預金保険対象外です。●外国為替動向等により払戻時に円貨額で元本割れが生じるリスクがあります。●円を外貨にする際、および外貨を円にする際には手数料（1米ドルあたり片道1円）がかかり、それぞれ当行所定のTTS・TTBレートを適用します。往復の為替手数料がかかるため、為替変動がない場合でも払戻時に円貨額で元本割れが生じるリスクがあります。●最低預入金額は、500米ドルです。●金利優遇は、円資金からの米ドル定期預金新規作成時のみ適用となります。お預入時の金利を満期まで適用し、満期日以降は適用されません。●定期預金の満期日以降の利息は、解約日の当行所定の普通預金金利を適用します（自動継続除く）。自動継続の場合、継続日における同一期間の当行所定の外貨から預入時の定期預金基準金利を適用します。●米ドル預金の為替手数料が無料となるのは、SBJダイレクト（個人のお客さま向けのインターネットバンキングおよびスマートフォンバンキングサービス）によるお取引限定です。店頭およびSBJBiz-DIRECT（法人のお客さま向けのインターネットバンキングサービス）でのお取引は対象外となります。●上記金利を適用した米ドル資金は、国内外向け他行宛米ドル建て送金にはご利用いただけません。【注意事項】●原則として、定期預金の中途解約はいたしません。やむをえず中途解約する場合は、当行所定の期日前解約利率を適用します。満期日を過ぎてから解約する際の満期日から解約日までの利率は、解約日の普通預金金利を適用いたします。●2017年3月31日（金）までの入金分が特典の対象となります。●金融情勢の変化等により、キャンペーンは予告なしに中止または内容を変更させていただくことがございます。●各商品の詳細は、当行ホームページまたは店頭の説明書でご確認ください。　【2017年3月8日現在】

詳しくはホームページまたはお電話で TEL 0120-015-017 携帯・PHSからは、03-4560-8017(通話料有料) 受付時間 平日9:00～18:00 http://www.sbjbank.co.jp SBJ銀行 SHINHAN BANK JAPAN

海外激安航空券 DISCOUNT AIR TICKET

関空発着 往復航空券　2017年3月15日～31日ご出発限定価格（1週間有効、空港税、航空保安税、別途要）（週末・祝祭日を除く）

ソウル	プサン	済州島
21,000円～	18,000円～	34,000円～

（済州島への直行便は週3便運航となります）

TEL：06-6281-1230　FAX：06-6281-1255

ジーエストラベル GS TRAVEL　大阪府知事登録旅行業第3-1841号　平日 9:30～18:30　土曜 9:30～14:00　VISA MasterCard

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-13-21 和田由ビル302 地下鉄御堂筋線『心斎橋駅』⑥番出口より徒歩3分

公共施設の利用制限

反ヘイト議会決議

江戸川「対策法」趣旨踏まえ

東京都内で初

2016年5月の「ヘイトスピーチ対策法」の成立を受け、東京・江戸川区が同年の第4回区議会定例会席上、道路と公園の占有許可、および公共施設の利用許可の申請にあたって「本邦外出身者に対する不当な差別的言動を行う場合」にはこれを規制するとした新たな条項を付け加える決議をしていたことがわかった。東京都区内では初めてのこと。

民団支部の要望実る

民団東京・江戸川支部（李鍾郁支団長）の要望を受けた行政と議会の素早い対応の結果だ。

公園・緑地の占用基準を見ると、従来から騒音などで近隣住民に迷惑をかけないよう求めている。昨年8月からは「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律第2条に規定する『本邦外出身者に対する不当な差別的言動』を行うときには占用を許可しない」と明記した。

区の施設予約システム「えどねっと」利用者規約にも昨年10月1日、「ヘイトスピーチ対策法」第2条に規定する「本邦外出身者に対する差別的言動を行う場合」には利用を承認しないとする一文を加えた。

一方、ヘイトデモを行う際の道路使用許可については公明党の佐々木勇一区議の質問を受けた前田裕爾区総務課長が「警察の許可になりますが、当然のことながら私どもも警察と連携を取りまして対応していきたい」（16年度決算特別委員会、10月3日）と答えている。

同支部は昨年7月、区議会議長、同副議長および各会派の幹事長を招いて懇親会を開き、「対策法」に罰則規定がないことを指摘し、「民族差別、人種差別を目的とする公共施設の利用許可申請に対する適切な措置を講ずることを求める要望書」を提出していた。

民団東京本部（金秀吉団長）は「公共施設の使用禁止などを要望していく参考例になる」と都内の各支部に周知した。

長谷部健区長（右）が啓発活動の充実を約束

ヘイトスピーチ解消へ 渋谷区に対策呼びかけ

市民集会

「ちがいをちからに変える街」を合い言葉に、条例で全国に先駆けて同性カップルを結婚に相当する関係として認めた東京・渋谷区でシンポジウム「シブヤ・ダイバーシティ会議2017」が開かれた。条例をさらに充実させ、ヘイトスピーチや排外主義などにも対応できるものにしていきたいと、推進団体「渋谷・新ダイバーシティ条例推進協議会」（長島結代表）が呼びかけた。区議と区民ら150人で満席となった。

区が性的少数者（LGBT）の権利を保障し、同性カップルにパートナーシップ証明書を発行する条例を制定したのは15年。16年10月には人種、性別、年齢、障害を超えて多様性が尊重される新基本構想「ダイバーシティ条例」を策定した。

冒頭、基調講演を行った長谷部健区長は、「多様な個人が尊重される社会」の実現を訴え、ヘイトスピーチ（憎悪扇動表現）については「表現の自由をかたった人権侵害」と啓発活動の充実を約束した。ただし、条例の改正には時間がかかるとして「開かれたプロセスで区民の意見を集める」と答えた。

続いてのシンポジウムでは、渋谷区でもヘイトデモ・街宣が起きていることからダイバーシティ条例のさらなる充実を求める声が各パネリストから相次いだ。

師岡康子弁護士は「人種差別撤廃条約における条約上の義務は国だけでなく、地方公共団体も負う」と述べ、実効性のある施策のために条例を作ることが求められていると強調。いますぐできることとして、ヘイトデモ・街宣の主宰者には公共施設を貸さないよう求めた。政治学者で高千穂大学教授の五野井郁夫さんは、住みやすい渋谷をつくるため、陳情と請願で区民の声を直接、区政に届けることは重要と呼びかけた。

会場で傍聴していた河貴明さん（婦人会東京本部会長）は「国の対策法ができたが、罰則もなく、まだまだ不十分。ヘイトスピーチを許さない実効性のある条例をつくってほしい」と会場の議員に向かって切々と訴えた。

渋谷・新ダイバーシティ推進協議会は16年12月に発足。長島代表が長谷部区長と面会し、シンポジウムへの出席と条例化への理解を訴えてきた。目標は東京オリンピック・パラリンピックの開かれる20年。長島代表は「渋谷は自分が生まれ育った街。絶対あきらめない」と意欲を燃やしている。

各支部が行政へ声を

寄稿　趙學植弁護士

先日、東京都江戸川区で、区が管理する公共施設での集会等の許可条件として「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律第2条に規定する『本邦街出身者・に対する不当な差別的言動』を行わないでください」との条項が加えられました。

具体的な許可申請を受けて条件を吟味する以前の段階で、一般的前提として、公共施設の利用許可申請に対しては16年5月に成立・施行された「ヘイトスピーチ対策法」が踏まえられるべきとされたのです。

このことは、民団東京・江戸川支部の皆様が江戸川区議会に対して「民族差別、人種差別を目的とする公共施設の利用許可申請に対する適切な措置を講ずることを求める要望」を粘り強く伝えた成果であり、全国的に見ても非常に画期的なことと思います。

また、民団東京・江戸川支部が、多様性と国際色豊かな地域社会の住民として同区域に貢献してきた結果ともいえるでしょう。

「ヘイトスピーチ対策法」が国会で成立したときは、全国の同胞たちが運動の成果を喜びながらも、罰則のない同法がどれほど有効なものかわからずに不安を覚えてもいました。しかしながらその後、神奈川県川崎市や大阪市での「ヘイトデモ」を差し止める司法判断や、今回の江戸川区のような地方自治行政への影響も見られ、やはり同法の制定は意義深いことであったと実感させられます。

自治体にも責務

地方自治体にも、「当該地域の実情を踏まえた施策を講ずるよう努める」責務があります（ヘイトスピーチ対策法4条2項）。この度の江戸川区では、地方行政がヘイトスピーチ対策法の精神を発揮しました。

これからも、ヘイトスピーチ・ヘイトクライム・人種差別の根絶に向けた運動は全国各地支部レベルで展開していくことでしょう。

ヘイトスピーチ対策法等を拠り所にしつつ、地域住民としての各支部の声を地方行政に届けることで、この多文化共生社会がより一層豊かなものになっていくことを期待してやみません。

（在日韓国人法曹フォーラム会員）

先進分野で研究発表

在日科技協　合同分科会開く

在日韓国科学技術者協会（張甲淳会長）は2月27日、東京・港区の韓国中央会館で第8回合同分科会を開催した。同分科会は世界的な科学技術者の養成を目的とした学術大会。青森から九州まで日本全国から同胞研究者を中心に100人が集まった。

会場では機械工学、化学研究、有機電子材料など9つの研究分科会から参加した有志が、AグループとBグループに分かれてそれぞれポスター発表を行った。

また、在日3世を中心とした「ヤング・ジェネレーション・フォーラム（YGF）」も同時開催され、在日科技協直前会長の洪政國さんが「ライフサイクルとYGF」と題して基調講演。続いて孫尚卿さんが「エンジニア・科学者の仕事を支える『計測』の世界」と題した発表。大学院を中退して白頭学院建国学校教師で教師として奮闘する李相民さんは、民族学校の現状と将来像について持論を述べた。

発表会に先だって理学博士の家泰弘氏（日本学術振興会理事）が「日本の基礎研究振興―その成果と未来」と題して特別講演、岡山大学の金恵淑准教授が「新しいマラリア治療剤開発のための基礎研究」について研究講演を行った。

保護者にヘイト文書配布

塚本幼稚園に抗議

民団大阪

郵便受けに抗議文を投函する民団職員

【大阪】学校法人森友学園が運営する塚本幼稚園幼児教育学園（籠池泰典園長、大阪市淀川区）が「よとしまな考え方を持った在日韓国人や支那人」などと記した憎悪扇動文書を多くの保護者に向けて配布していた問題で、民団大阪本部（鄭鉉権団長）は2月24日、同園を訪れ、民族差別だと抗議した。

籠池諄子副園長は韓半島にルーツを持つ保護者に対し、「心中韓国人と中国人は嫌いです。お母さんも日本に嫁がれたのなら日本精神を継承されるべきです」などと書かれた文書を送りつけた。保護者は強い衝撃と恐怖を覚え、子どもを退園させざるをえなかった。

また、同園が昨年12月に配った保護者向け冊子では「（韓国の）心を引き継いだ人たちが日本人の顔をしてわが国に存在することが問題」と記載していた。

一方、塚本幼稚園を強制的に退園させられた元園児を持つ別の保護者らがホームページを開設し、幼稚園の教育手法を批判するや、「投稿者は巧妙に潜り込んだ韓国・中国人等の元不良保護者であることがわかりました」と攻撃した。（この文書はすでに削除され、「外国人の方に対して誤解を招く表現があった」というお詫びの言葉に変更された）

民団からは朴英哲副団長をはじめとする関係者6人が同園を訪れた。だが、面談できなかったため、抗議文を投函した。

要求内容は保護者向けの説明会開催と、民族差別であることを認めたうえでの謝罪と再発防止のための人権教育研修の充実、および、在日韓国人や中国人に対する偏見を改め、公式の場で謝罪をすること。

文書配布「不適切だった」

籠池園長　府教育庁に対策約束

民団大阪本部は府教育庁も訪れ、行政指導を求める要望書を向井正博教育長に提出していた。朝日新聞によれば籠池園長は3日、府教育庁を訪れ、「よとしまな在日韓国人・支那人」などと記した文書を配っていたことを不適切だったとして今後、コンプライアンス室を立ち上げて対策を取ると表明したという。

各地3・1式典

大阪の式典には団員ら500人が参加。鄭鉉権団長は「先人たちの不屈な意志を継承し、時代の変化と要求に適応しながら強く生きていくことができる在日同胞社会と民団組織を創造していこう」と呼びかけた。

駐大阪総領事館の河泰允総領事が記念辞を述べた。決議文が拍手で採択され、白頭学院建国小学校の児童たちが3・1節の歌を斉唱、青年会、学生会らがスローガンを斉唱した。午後からは映画「テヤンアレ（太陽の下で）」が上映された。

京都では、河相泰団長がヘイトスピーチ根絶に向けた取り組みについて語り、韓日両国間の懸け橋となると決意を述べた。駐大阪総領事館の梁宰國副総領事は韓日関係に言及、未来志向的な正しい歴史認識に基づき、対応していくと述べた。

4人で「ソンバン　ソルチャンゴ」を発表

オリニスキーキャンプ

民団北海道と体育会が共催

【北海道】民団北海道本部（李圭亮団長）は2月25、26の両日、オリニを対象とした「ウインターキャンプ」を夕張マウントレースイで実施した。体育会北海道本部（金哲一会長）との共催。参加者はオリニだけでも26人を数え昨年の17人を上回った。昼間はスキースクールを楽しんだ。夜は友だちとの交流に時間を忘れ「夜中も眠れない」と話していた。

独立宣言文は京都国際学園の朴秀顕君（高1）、決議文は青年会京都本部の金貴翔会長が朗読した。

滋賀の式典では朴鍾文団長が「（在日の）過去、現在、未来を見つめ、韓国人としての立つ位置を考えよう」と強調した。駐大阪総領事館から尹鍾珉領事が参席。

広島は李英俊団長が呉公太中央団長の記念辞を代読した。式典では財団法人広島韓国奨学会（沈勝義代表理事）による奨学金の支給式があった。

今年度は団員子弟の大学生7人が選ばれた。給付制で年間20万円。毎年、3・1節と光復節式典の2回に分けて贈っている。第2部では李鐘根さんを講師に「被爆者体験証言を聴く会」を行った。

福岡では公立小学校民族学級講師およびオリニ土曜学校に対する支援金の伝達があった。式典では李相鎬団長が呉公太中央団長の記念辞を代読。第2部で記録映画「戦後在日50年史『在日』」（呉徳洙監督）のダイジェスト版が上映された。

伝統文化教室受講生が発表

在日本韓国YMCA

在日本韓国YMCAでカヤグム、チャンゴ、舞踊を学ぶ各受講生による韓国伝統文化発表会が4日、同会館地下のスペースワイで開かれた。受講生にとっては1年に1回の晴れ舞台。緊張した面持ちで舞台に立った。

チャンゴ教室は下仁子さんが3つのクラスを指導している。各クラスとも下さんと一緒になって「アンジュンバン　ソルチャンゴ」をフルバージョンで披露した。なかには10年以上学んでいるという受講生も。初級とはいえレベルの高い演奏を披露した。同じく柳絢子さんが指導するチャンゴ教室からは4人が出演、「ソンバン　ソルチャンゴ」で息のあった掛け合いを見せた。

このほかにも、カヤグム教室受講生によるカヤグム併唱「コチピョンネ（花が咲いた）」、舞踊教室による「三面太鼓」、「サルプリチュム」とバラエティ豊かな演目が続き、観覧席からは「オルシグ」、「チョアヨー」、「クルチ」といった感嘆と称賛の間の手が続いた。

4月に体験教室

在日本韓国YMCAでは4月からの2017年度韓国伝統楽器・舞踊教室開講を前に、初心者向けの体験レッスンを開催する。定員は各教室とも10人。受講料は各500円。

▽カヤグム（金幸子講師）＝4月1日11～12時30分▽韓国舞踊（姜芳江講師）＝4月1日13～14時30分▽チャンゴ（下仁子講師）＝4月6日14時30～16時。

問い合わせは在日本韓国YMCA（03・3233・0614）。

子どもたちでにぎわう餅つき会場（広島韓国会館）

子どもたちが餅つきを体験

広島韓国学園

【広島】毎週土曜日、広島韓国学園（宋德奎学園長）に通う子どもたちが2月25日、広島韓国会館の敷地内で自宅ではなかなか体験できない餅つきを楽しんだ。

4歳以上の児童20人余りが参加。小さな体にはかなりの負担と思える重そうな杵を持ち上げ、もち米33㌔をついた。

始まったのは一昨年。「またやりたい」という子どもたちの期待に応えて毎年続いている。つきあがった餅は子どもたち自ら近隣の家庭に配って歩いた。

南京都支部で「歴史塾」開講

11月まで6回予定

【京都】民団南京都支部（金政弘支団長）は2月21日、団員を主な対象とした歴史セミナー「南京都歴史塾」を同支部会館で開講した。

第1回は京都国際学園の河東吉校長が古代日本と渡来人との関わりを中心に講演した。セミナーは11月まで年6回の開催。このほか、遺跡探訪も2回予定している。

次回は3月22日19時30分～21時。講師は河校長。金支団長は「講座を通じて未来志向的な歴史観を持ってもらい、組織結束力を高めていきたい」と話している。

高麗郡建郡1300年事業で地域再生大賞「優秀賞」

一般社団法人　高麗1300

【埼玉】一般社団法人高麗1300が第7回地域再生大賞の「優秀賞」を受賞した。同賞は地域に活力を与え、魅力を高める活動に取り組む団体を顕彰するもの。共同通信と地方新聞45紙が推薦した50団体を対象に選考委員会（委員長＝岡本義行法政大学大学院教授）が審査し、各賞を決めた。

高麗1300は高麗郡建郡1300年記念事業を推進しようと11年に設立。昨年は高麗郡の中心であった日高市と協働、旧高麗郡や隣接の8市3町をエリアにさまざまな事業を行ってきた。祝年を終えた今年からは「歴史を土台にした地域づくり」を主なテーマに活動している。

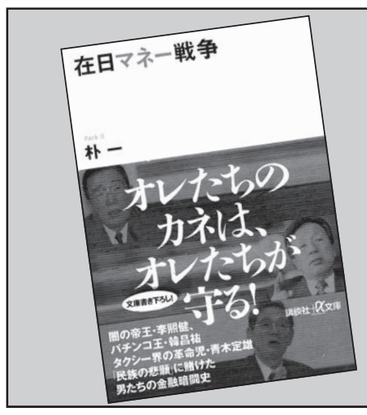
表彰式は2月17日、東京都千代田区の都市センターホテルで行われた。大賞は住民団体の活動をサポートしてきた新潟県村上市の都岐沙羅パートナーズセンター。

泰興不動産事務所
許可番号4402-1062
韓国済州道不動産専門
代表 金興錫

済州道済州市二徒二洞2029-19
FAX:82-64-751-0588
H P:82-10-2565-0544
mail:xogmd881@hanmail.net

㈱スーボク不動産
★韓国の不動産のことならお任せください
★不動産管理・売買仲介　★敏速に処理
★墓地管理等　★忘れた先祖の土地調査
★各種ありとあらゆる相談は無料
★皆様の手足となり働きます

代表理事 元容秀
大阪市東成区玉津 1-4-22(関済協・6F)
TEL 06-6976-0112　FAX 06-6976-0096
携帯電話 090-8885-9031
本社）済州道 西帰浦市 西烘洞 440-1
西帰浦市庁内 2F 13号　TEL 82-64-767-8949



朴一　新著
在日マネー戦争
文庫オリジナル書き下ろし
オレたちのカネはオレたちが守る―。
「在日のドン」と呼ばれた三人の男たちのマネーゲームに迫る。
好評発売中　630円(税別)
講談社+α文庫

知は平等―小さな図書館運動

38カ所増え 文化の街に

ソウル冠岳区　柳鍾珌区長

韓国を含む世界14カ国、47館の図書館をめぐり、そこで出会った知の感動を綴った『世界の図書館　夢を育む知のミュージアム』（一般社団法人日本地域資源研究所刊）の著者で、2010年にソウル・冠岳区の区長に就任した柳鍾珌さんは2月14日、日本地域資源学会主催の国際シンポジウム「都市を再生する魔法のミュージアム」で、「世界の図書館と冠岳区の未来プロジェクト」と題する特別講演を東京の韓国文化院で行った。区長就任後から展開している「知識の福祉」に基づく「小さな図書館」運動などについて語った。

講演ではまず、自ら訪ねて調査したなかから、象徴的な図書館を取り上げて紹介した。

紀元前3世紀につくられた人類最初のアレクサンドリア図書館（エジプト）は、アルキメデスやユウクレイデスらを輩出しており、地球の外周を初めて測定したエラトステネスは、40年間館長を務めたことで知られる。さらに好奇心と知識欲が旺盛だったクレオパトラは、少女の頃から図書館を愛用し、知識を磨き上げたという。

次いでアドモンド修道院図書館（オーストリア）とアンジェリカ修道院図書館（イタリア）、世界最大規模のアメリカ議会図書館、フランス国立図書館ミッテラン館の特徴について説明した後、図書館と深いつながりのあるオバマ前大統領や発明王トーマス・エジソンなど著名人のエピソードも披露した。

後半は、冠岳区で学びのきっかけを働きかける「小さな図書館」をたくさんつくることで、格差と貧困を解消するプロジェクトの取り組みについて話した。

同区は53万人が暮らす典型的な庶民の町。かつて丘の上にはタルトンネと呼ばれる貧民街が散在していたが、都市の再開発などでバラックはアパートに変わった。だが、ソウル大学を除けばこれといった産業施設や企業もなく、住民の所得水準も高くない。本を購入したり、知識に触れることが困難な人は多いと、説明した。

柳区長は「幼い頃に知識が充分に与えられないと精神の欠乏を招き、将来の夢さえ見られなくなる。誰でも太陽の恵みを受けられるのと同じに、知識の恵みを受けられるようにするのが知識の福祉だ」と熱を込めて語った。

就任前に5つだった図書館は、43カ所に増えた。冠岳山チケット売場や廃棄コンテナを改造して図書館にしたり、既存の建物やスペースを活用しているのが特徴だ。また、洞ごとにある民間団体「セマウル文庫」の20カ所と協力体系を結び、ボランティアスタッフに運営を任せることで、コスト削減を実現した。

庁舎1階に設置した小さな図書館は1日約1000人が利用。作家を招いてブックコンサートを開いたり、講義やイベントも多く行われる。庁舎に立ち寄った住民たちは休憩のかたわら、本を読んだり、集まった人たちと語りあったり、くつろぎの空間として愛されている。

同区内の一部の地下鉄駅には「冠岳U図書館」（無人ユビキタス図書館）が設置され、通勤時に申し込みをすると、帰宅するときに受け取れることから利用者が増えている。そしてミニバスが最寄りの図書館や地下鉄駅まで本を届ける「知識弁当の配達」では、昨年1年間に配達された本は40万件になった。

高齢者のこれまでの生活を記録し、子どもたちに残す文化運動「老人自伝事業」では、これまで約60冊を出版するなど、数々の取り組みを紹介した。

「冠岳区は住民から図書館と読書運動の支持を受け、以前のタルトンネというイメージから抜け出し、知能文化の街に変わった。住民たちが今の私を作ったのは、小さな図書館だったと話す日が来ることを期待している」

一般社団法人日本地域資源研究所（2500円＋税）。03（5278）8782

格差解消に図書館づくりの重要性を語る柳区長

文化

サラム賛歌 ㉗

仁川発　戸田郁子

再会して実感 血肉の情

全羅北道益山市の高校で社会科を教える朴来新さん（56）は、中国黒竜江省尚志市のことを、まるで自分の故郷のように語る。

尚志は省都ハルビンから、車で2時間ほど。朴さんが初めて訪れた10年前は、道路事情が悪くて4時間余りかかった。

朴さんは勤務先の女子高と、尚志にある朝鮮族学校との交流プログラムで、2カ月間、韓国の学生を連れて滞在したのだ。

「ここは観光地ではないが、朝鮮族の暮らしや歴史を知ることのできる場所。韓国の学生にとっても、良い経験になる」

尚志朝鮮族学校は、黒竜江における朝鮮族の教育基地として、70年の歴史を誇っている。

学校同士の交流は、すでに2001年から始まっていた。尚志から益山にやって来る朝鮮族の先生方を、朴さんはいつも歓待した。

そして初めて訪れた尚志で、朴さんは熱烈な歓迎を受けた。

それから10年。この冬、私が朴さんと共に尚志を訪れると、大勢の先生方が手ぐすね引いて待っていた。

宴会席で度数の強い中国の白酒がコップに注がれ、乾杯、乾杯の連続。朝鮮族学校の校長先生まで、年上の朴さんのことを「兄さん」と呼んで慕っている。朴さんはとても嬉しそうに、夜更けまで皆と、酒を酌み交わしていた。

実は、朴さんが中国朝鮮族に格別の親しみを感じるのには、わけがある。

写真を見ていただくと、朴さん。前は、中国延辺朝鮮族自治州延吉市生まれの李愛淑さん（62）。遠く離れて生まれ育ったが、二人はとてもよく似ている。四寸（いとこ）同士なのだ。

朴さんは母から、終戦前に母の兄が学徒兵として引っ張られたと聞いていた。

高校の社会科教師　朴来新さん

朝鮮戦争のときには、その兄がなぜか、中国人民軍の軍服を着て故郷に現れたと聞いた。しかしその後、消息は途絶えた。

1988年のソウルオリンピックのころ、郡庁から朴さんの母の元に、問い合わせがあった。中国で肉親を探している人がいるという。延吉に住む李愛淑さんの父、李祥昊氏が手紙を書いたのだ。

韓中国交正常化前だが、朝鮮族の親戚訪問が始まっていた時期だった。40年近い断絶を経て、朴さんの母は兄と再会した。

翌年、伯父は延吉の家族を引き連れて、益山にやって来た。当時、新婚の朴さんは、母と同居していた。そこに5人の見知らぬ親戚が現れて、一カ月余りを共に暮らした。血肉の情を実感する日々だった。

伯父は娘にも、なぜ故郷に戻らず延辺に住んだかを、決して語らなかったという。日本軍に引っ張られ、その後、共産軍に入った人だ。文化大革命で大きな傷を受け、政治的な迫害を恐れたのだろうと、私は想像する。

朴さんの母も、兄を探せなかった。韓国は反共国家で、「バルゲンイ（アカ）」と接触することは許されなかったのだ。

つらい離散を経て、嬉しい再会があったことは、大きな幸いだった。朴さんは朝鮮族との縁を大切にして、新しい出会いを楽しんでいるのだ。

この冬中国で、朴さんと李愛淑さんは久しぶりに再会した。二人のふくよかな手もまた、不思議なほどそっくりだった。（作家）

26本の韓国アニメ

4月に大阪、東京で上映

韓国の今を短編で上映する「花開くコリア・アニメーション2017＋アジア」が4月、大阪と東京で開かれる。

韓国唯一のインディーズ・アニメーション映画祭「インディ・アニフェスト」の最新上映作から、「宇宙の記憶」「宇宙の形」「宇宙の旅」の3テーマで、短編26本を紹介する。

さらに今年は、昨年から同時映画祭に新設されたアジアコンペティション部門「アジア路」から、日本、中国、インドなど6カ国の優秀作品8本を上演する。

〈大阪会場〉4月8～14日。PLANET＋1（北区）。1回券一般1000円、会員・学生800円ほか。

8日18時から大阪韓国文化院セミナー室・冬で、韓国インディーズ・アニメーション界で長年活躍するカン・ミンジ監督を迎え、作品トークとアニメーションのワークショップを行う。

〈東京会場〉22～23日。アップリンク渋谷スクリーン1。一般1300円、学生1000円ほか。

23日は17時の上映終了後、作品「父の部屋」でインディ・アニフェスト大賞を受賞したチャン・ナリ監督と心理学者・アニメーション研究者の横田正夫さんとのゲストトークを開催する。22日はサイレント映画ピアニスト、柳下美恵さんを迎えて、今年10回目を記念する特別イベントも行う。

詳細は公式サイト（http://www.anikr.com）。

呉日回顧展 ゼロの叫び

6月までソウルで開催

在日韓国人2世の画家、呉日さん（1939～2014年）の「呉日回顧展―ゼロ（無）の叫び」が6月3日まで、ソウル・東大門区のスリムアートセンターで開かれている。

呉日は広島県生まれ。生前に35回の個展を開いており、00年韓国の光州市立美術館が開催した在日コリアンの作品を集めた展示会にも参加した。

その作品は、太く力強い線と強烈な印象を与える原色が特徴。幼いころ、慶尚南道の居昌に一時滞在したこともある。

同展では油絵64点とドローイング16点をはじめ、約480冊のスケッチブック、知人とやり取りしたはがき、写真などが展示されている。

呉日の作品（スリムアートセンター提供）

韓国特産品を販売

東京にカフェパラム

韓国料理研究家の趙善玉さんは2月20日、東京・新大久保の料理研究院の一部を改装し、韓国の特産品を展示、販売する「Cafe Param」をオープンした＝写真。韓食の魅力を伝えてきた趙さんの新たな試みだ。

趙さんは韓国に行くなかで、地方にある特産品の良さを知った。それを日本に広めようと食品の販売業者らに商品を紹介すると、数社の商談が成立した。その後「このような商談や紹介をしてもらえる場所がほしい」という要望に応えるかたちでカフェを開いた。

カフェでは一般の人だけでなく販売業者も呼び込み、家庭での消費と流通の面から食品の魅力をアピールする。業者には地方から輸入した食品を使った料理を提供し、一般の人には家庭での調理法を提案する一方で、販売業者と製造業者との商談をつなぐ場としても活用する。

現在は全羅北道の餃子や慶尚北道の唐辛子の粉などを取り扱っている。日本で製造された食品も販売しており、今後も順次ラインナップを増やしていくという。

新刊紹介

辛味（赤）だけでない韓国料理

AIMイシュー11『韓国料理赤vs白』が、出版社AI Entertainment Incのオンラインショップで発売されている。

韓国では現在、辛いだけに飽き足らず「激辛」が大流行で、インスタントラーメンはこぞって激辛商品を販売しているという。しかし、辛くない料理も豊富なので、ぜひ味わってほしい。

本書では唐辛子の入った辛い料理（赤）とそれ以外の料理（白）を写真と文章で紹介。また、ミシュランガイドソウル版で一つ星を獲得した韓国料理レストラン「POOM Seoul」や韓国宮廷料理専門店「チファジャ」、観光スポットであるソウルの明洞と南大門のストリートフードでは、今流行の食べ物も取り上げている。

定価1800円＋税。購入・詳細はAIオンラインショップ公式ホームページ（http://aim.aient.asia/）。

展示

◆李華書芸会―総合作品展

20日。アクロス福岡2階（メッセージホワイエ、中央区）。10～18時（最終日16時まで）。

福岡市を拠点に活動する書家の李安子さん（同会主宰）の作品をはじめ、同会会員のハングル書、漢字、水墨画などの作品を展示する。

問い合わせは李安子（092・671・8798）。

◆創設80周年特別展「柳宗悦と民芸運動作家たち」

3月26日まで。日本民芸館（東京・目黒区）。10～17時開館。入館料一般1100円、大高生600円、中小生200円。

柳宗悦とともに民芸運動を牽引したバーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈介、棟方志功の作品を一堂に展示。彼らに続く作り手の作品も加え、併せて柳の書や原稿、関係書籍なども紹介する。

問い合わせは同館（03・3467・4527）。

文化祭

◆第28回三・一文化祭

26日。福岡市立千代小学校体育館（博多区）。10時30分～15時30分。無料。

出会い、交流、共生をテーマにしたマダン。民俗遊び、ノレチャラン「みんなで合唱」、マダン劇や民謡、和太鼓、サムルノリ、吹奏楽などを披露する。

食文化コーナー（ビビンパ、キムチ、チヂミ、韓国伝統茶、韓国スナック菓子）をはじめ、チョゴリ試着コーナー、伝統遊具・小物コーナーなども設ける。

問い合わせは三・一文化祭実行委員会（092・571・1133）パク。

公演

◆相思夢―韓国舞踊へのいざない

4月2日。あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）。14時30分開演。前売り2000、当日2500円（当日13時30分から整理券配布）。

韓国から日本に拠点を置き韓国舞踊の普及に努める金聖愛＝写真＝韓国舞踊研究所主催による、初の単独公演。金さんは重要無形文化財第27号僧舞保有者チョン・ジェマンさんに師事。

当日は韓国で活躍する舞踊家、劉玄珍や国楽音楽家の具珉我を迎える。演目はカンガンスルレ、珍島プク舞、サルプリ、創作舞踊ほか。

チケット予約・問い合わせは（080・8081・5478）李。

コンサート

◆日韓文化交流イベント「めぐり逢いコンサート」

4月23日。渋谷伝承ホール（東京）。13時30分開演。入場料大人3000円、高校生以下1000円。

オープニングは東京韓国学校オモニ合唱団。〈第1部〉日韓伝統楽器の調べ（カヤグムと箏）〈第2部〉ソプラノ歌手の田月仙さんが、オペラ「ザ・ラストクイーン―朝鮮王朝最後の皇太子妃―」からアリアなどを披露する。出演は金オル（伽倻琴）、高橋てるみ（箏）、山内敦子（メゾソプラノ）ほか。チケット・問い合わせはめぐり逢いコンサート実行委員会事務局（090・7707・8589）山内。

みんだん生活相談センター

民団では生活者団体として同胞生活に密着した切実な問題（税務、法律、相続、戸籍整理等）の解決に適切に対応するため、各分野の専門家で構成された相談体制「みんだん生活相談センター」を運営しています。

団員の皆さんの悩みや困っていることについて、専門相談員が相談をお受けしています。相談費用は無料で、秘密は厳守します。どうぞ、最寄の民団にお立ち寄りください。

■ 韓国民団は、在日韓国人の生活者団体です。
私たちは正式名称を在日本大韓民国民団（略称…韓国民団）と称し、在日韓国人の為の生活者団体です。日頃は、在日韓国人の権益擁護と民生安定、経済発展や文化・教育の向上、そして日本の方を始めとした皆様との国際交流・友好親善に向けた諸般活動を推進しています。

同胞生活の悩み事や相談は
「みんだん生活相談センター」へ
お気軽にどうぞ

【相談方法】
●電話による相談
●予約制による面談
●地方センターでの面談
いずれも事前に予約が必要です

【相談内容】
■各種法律
■税務
■相続
■戸籍整理
■在留資格
■国際結婚・離婚
■不動産　その他

【専門相談員】
●相談員（行政書士、税理士、弁護士、司法書士）による無料相談です。（1人1回30分）

【相談受付日時】
●月～金（10時～16時）

【専門サイトも開設】
●「みんだん生活相談センター」では事例集などを紹介するホームページも開設。

みんだん生活相談センター
東京都港区南麻布 1-7-32　〒106-0047
韓国中央会館別館7階
TEL 03（3454）4911　FAX 03（3454）4632

地方センター
●みんだん生活相談センターむぐんふぁ神奈川　045（316）0505
●みんだん生活相談センターながの　0263（33）6858
●みんだん生活相談センターみやぎ　022（263）6961
●みんだん生活相談センターほっかいどう　011（511）3381
●みんだん生活相談センターあいち　052（452）6431
●みんだん生活相談センターとやま　076（433）2626
●みんだん生活相談センター大阪　06（6371）7331
●みんだん生活相談センター兵庫　078（642）6303
●みんだん生活相談センター京都　075（781）8281
●みんだん生活相談センターおかやま　086（225）0826
●みんだん生活相談センターふくおか　092（431）7231